

一第72編一 サヌールの*₁のコテージ

あまり事前情報を持ち合わせないまま飛んだバリである。空港のあるデンパサール*₂からそれほど遠くないサヌールビーチにまずは逗留することになった。そこは落ち着きと素朴さを併せ持つ雰囲気魅せられた西洋人たちが長期滞在をするリゾートであった。かつては小さな漁村であったが、1930年頃から芸術家達が集まり、滞在する村として知られていた。広々としたビーチでは、名の知れたクタほど物売りに声をかけられることもなく、地元の子供たちが玩具の帆船や凧と遊ぶ姿も見られる。夜明けの海上に朝日が昇る様は格別である。

私は途中でコテージが海辺の木々の間に点するホテルに移り、内陸



写真72-1 平屋のコテージ外観



写真72-2 コテージのテラス

の旅に出る前のひと時を伝統的な住まいの工夫を引き継ぐ宿舎で過ごすことにした。分厚い影を落とす日本の民家にも似た茅葺の屋根はテラスの上に中間領域を生み、内部でも外部でもない快適な空間を提供してくれる。島で手に入る砂岩にはグレーと赤みを帯びた2色のコントラストはそこが赤道に近いことを教えてくれる。磨かれた石の床の冷たさと、開口部を通り抜ける浜風に体温を気持ちよく奪われながら、エアコンでは決して得ることのできない、ゆつたりとした時と空間を味わうことができた。

同じコンパウンドに建つもう少し大きなコテージは、家族の長期滞在向きだ(写真72-3)。屋根中央の頂部に小ぶりの腰屋根を戴き、2階建て分の高さがある方形の平面を持つ。大きな茅葺屋根は細見の4本の柱で支えられ、入口回りに広々としたポーチ・テラスの中間領域を創り出す。そこには、室内の居間がそのまま運び出されたように家具が無造作に置かれ、滞在中の大切な空間であることを主張している(写真72-4)。

白い砂浜から連続するリゾート環境の中で、ステレオタイプな現代のホテルの退屈さを忘れ、あたかも伝統的な集落に身を置いているような幸せな日々であった。



写真72-3 2階建てコテージ外観



写真72-4 入口周りの中間領域

*1
Sanur: インドネシア、
バリ島屈指のビーチリ
ゾート

*2
Kota Denpasar: バリ
州の州都。市域人口約
49万